

鳥海山修験・史跡鳥海山巡見を行いました！

6月8日（日）に平成26年度事業、自然、史跡観察会の一環として、鳥海山修験・史跡鳥海山巡見を行いました。

巡見コースは下記の通りです。

9:00 市役所→10:00 象潟小滝(金峰神社)11:00→11:40 鳥海山鉾立 13:00→13:30 吹浦大物忌神社→14:30 蔵岡大物忌神社→15:30 竜頭寺→17:30 市役所前解散

会員の皆さまもおなじみの場所であり、一度は訪れたことのある場所であるとは思いますが、今回の巡見では、鳥海山の修験・史跡にまつわる各神社、お寺で、それぞれ市の文化財保護課長さん、宮司さん、住職さんから詳細な説明をいただきました。個人ではなかなか説明をいただけない内容、普段は見せてもらえない物など、国史跡鳥海山への魅力、興味がますます掻き立てられる内容となりました。

その内容の一部を紹介します。

(1) 象潟小滝（金浦神社）

にかほ市文化財保護課長、齋藤一樹さんより説明を受けました。金峰神社についての詳細な説明は、国指定史跡鳥海山資料をご覧ください。こととして、齋藤課長さんの話で印象に残った点について紹介します。

- ・小滝には、かつて修験者が5人おり、それぞれが宿坊を持ち鳥海山の参拝者を受け入れ、馬96頭を擁していた。国指定重要無形民俗文化財のチョウクライロ舞は6月の第2土曜日、11時30分頃から奉納される。チョウクライロは長久生容と書き延命長寿を願うもので、鳥海山の名前の由来の一つにもなっている。



- ・金峰神社の宝物殿は小滝の集落の力で建てたものである。チョウクライロ舞で使用される稜王、納曾利の面、杉一木造りの観音像、県の重要文化財の狛犬一對、獅子頭、番楽の面などを収納している。ちなみに、にかほ市には国の文化財が8つある。
- ・金峰神社本殿には蔵王権現立像3体をご神体として祀られているが、61年に1回しかご開帳されない。今回は昭和55年（1980年）だったので、次のご開帳は平成53年（2041年）ということになる。皆さまご健在であれば見る事ができる。蔵王権現立像は躍動感あふれるものだと聞いている。

(2) 吹浦大物忌神社

宮司さんから10ページにわたる史跡鳥海山案内パンフレット（遊佐町作成）をいただき説明を受けました。

- ・正式名称は鳥海山大物忌神社吹浦口ノ宮と呼ばれ、吹浦には宿坊二十五坊が存在していた。一宮（注：ある地域の中で最も社格の高いとされる神社のこと）としては、最も北にある。鳥海山大物忌神社は本社が鳥海山山頂にあり、二つの里宮、「吹浦口ノ宮」と「蕨岡口ノ宮」の三社で構成されている。吹浦口ノ宮は古代から鳥海山の神「大物忌神」と月山の神「月山神」（がっさんではなく、つきやまと呼ぶ）の両神を祭神としてきたことから「両所宮」（りょうしょのみや）と呼ばれてきた。
- ・吹浦口ノ宮には中世の鳥海山信仰を示す貴重な文書が残されている。それが「鎌倉幕府奉行人連署奉書」と「北畠頼信寄進状」であるが、特に「北畠頼信寄進状」には由利郡小石郷乙友村（こいしごうおつともむら）を、この両所ノ宮に寄進したことを示す文書で、現在の由利本荘市小友付近を寄進した、ということだろう。
- ・4月4日、5月5日（例大祭）の年2回本殿を参拝できる。
5月4日の例大祭宵宮には花笠舞が奉納される。
- ・20年に一回式年遷宮が行われる。



有名な「鳥海山名初出の鰐口」は見ることはできませんでしたが、拓本を見せていただきました。また今回は、特別に拝殿では無く、普段見ることのできない「大物忌神社本殿」と「月山神社本殿」に案内していただき参拝することができました。

(3) 蕨岡大物忌神社

地元（上寺山本坊、鳥海家）の鳥海（とりのうみ）さんからご説明をいただきました。

- ・正式名称は鳥海山大物忌神社蕨岡口ノ宮
- ・蕨岡には宿坊三十三坊があり、鳥海山修験の登拝口の中では最も勢力のあるところであった。
- ・かつては、二の鳥居をくぐったところにある随神門（仁王門）には仁王像が安置されていたが、明治初めの神仏分離の折に隣の龍頭寺に移された。
- ・5月3日が例大祭であり、神楽殿で蕨岡延年の舞が奉納される。年5回拝殿を開きお参りができる。



- ・本殿脇の石段からかつては鳥海山に登っていった。
- ・本殿の幕、扁額等に菊の紋章が使われているが、この神社が伊勢神宮との関わりで、いかに重要視されていたかを示すものである。
- ・境内には天保年間の三方領地替え騒動に関わり非業の死を遂げた江戸町奉行矢部駿河守を祀った荘照居成神社（そうしょういなりじんじゃ）、それにまつわって三重県桑名市から奉納された「さざれ石」がある。
- ・本殿には、鳥海山大権現の扁額と正一位大物忌神社鳥海山出羽國一宮の扁額がある。
- ・神社再建の折に竣工を記念した勝海舟揮毫の「光満六合」の扁額がある。

（４）鳥海山龍頭寺

住職さんから説明をいただきました。

- ・龍頭寺は真言宗智山派に属し、その正しい創建年代は不明だが大同２年（８０７）に慈照上人によって開創し、当初は十一面観音を本尊としていた。出羽国鳥海山大物忌神社三十三坊の本寺で一山を統括する別当学頭を努めていたが、江戸時代初期明暦元年（１６５５）以降は、鳥海山の本地仏である薬師如来を本尊として鳥海山龍頭寺と改称した。
- ・本地仏の薬師如来像は、春夏は鳥海山の山上で祀り、秋に背負い下ろして安置して参拝していたものである。
- ・蕨岡、吹浦、小滝、院内、滝ノ沢、矢島の鳥海山修験集落のうち山上の支配権を有し、蕨岡三十三坊は、寺領を有し、領主の酒井家の祈願寺として、酒井家の家紋を許されるなど大きな勢力を持っていた。
- ・蕨岡の修験衆徒は、他の鳥海山登山口の修験集落との間で信者獲得や峯争いを度々起こしてきたが、特に矢島衆徒との山上権争い、吹浦衆徒との一山別当の争いの中で最も有力な寺院となっていた。
- ・明治初期の神仏分離令により、神仏習合は終わりを迎え、吹浦衆徒にならい、蕨岡衆徒も一山全てが神道に改宗しようとしたが、この龍頭寺は従わず真言宗の寺として残ったものである。
- ・その後度重なる火災、神仏分離令及び明治５年の修験道廃止令により寺運がにわかに衰退し、宝や古記録などの多くを失った。過去帳、檀家の名簿などの失われた記録を復活すべくコンピュータにデータを入力し整理しているところである。



説明後、本地仏である薬師如来と阿弥陀如来様をお参りしました。

今回の巡見が有意義なものとなったのは、会員の三浦良隆氏の各巡見先との交渉によるものが大きく、またバスの手配、弁当の手配など会員の献身的なご協力の賜だと考えております。

今後とも、鳥海山の会事業へのご協力よろしく願いいたします。

日本修験学会研修会への参加費補助について

９月１３日～９月１４日に由利本荘市で開催される日本修験学会研修会に参加される会員に対して参加費を補助（１，０００円）します。参加予定の方は事前に事務局に申し込みが必要となります。申込方法詳細については後で連絡いたします。

日本修験学会研修会への参加費補助について

9月13日～14日に由利本荘市のカダールで開催される日本山岳修験学会（別紙パンフレット参考）の公開講演・研究発表に参加される会員に対して参加費（1,000円）を補助します。

参加予定の方は事前に事務局に申し込みが必要です。申し込み方法については以下のとおりです。

第35回日本山岳修験学会 史跡鳥海山国指定5周年記念 鳥海山学術大会 鳥海山の会会員参加申込みについて

鳥海山の会では由利本荘市教育委員会のご協力をいただき、すでに日本山岳修験学会に鳥海山の会会員30名の参加予約をしております。学会参加費（資料代）は1,000円となっておりますが、会員の参加費については、鳥海山の会で補助することにしました。

つきましては、学会へ参加を希望する鳥海山の会会員は、事務局に8月10日まで参加申込みをお願いいたします。

なお、会員の参加については鳥海山の会の事務局でとりまとめ、一括で由利本荘市教育委員会文化課に申込みしますので、下記の鳥海山の会の事務局へ直接電話で申込むか、あるいは別紙修験学会パンフレットの参加申込み書に氏名・住所・連絡先をご記入のうえ、下記のFAX番号を用いて事務局へお申込みください。

参加申込み先 鳥海山の会事務局 岡田淳一
Tel 090-2362-3129
FAX 0184-23-3238
申込み締切 8月10日（日）

なお、申込みがない場合でも当日会場には入れますが、資料が手に入らないこともあります。

日本修験学会研修会の会場で鳥海山修験地等の写真を展示

日本山岳修験学会が開催されるカダールの展示室に鳥海山や鳥海山修験地等の写真が展示されます。これら写真は鳥海山の会の会員が中心となって撮影をし、展示をする予定です。

入場は無料ですので、9月13日～14日の両日は是非ご覧ください。

鳥海山の会の今後の事業予定 —森子大物忌神社を訪問—

鳥海山の会の今後の事業として下記の事業を予定しております。詳細については後日連絡をいたしますので、会員多数の参加をお願いいたします。

11月9日（日） 史跡鳥海山国指定地研修 森子大物忌神社 訪問
研修内容 ・十二神将像その他の拝観
・宮司さんによる講話

その後、希望者は八乙女山の道者道を登り、秋の自然を観察します。